

## 令和元年度第1回西部地域政策総合会議 議事概要

### 1 開催日時

令和元年8月27日（火） 午後1時45分から午後3時45分まで

### 2 開催場所

西部総合県民局 美馬庁舎2階 大会議室

### 3 出席者

委員11名

伊庭委員，宇山委員，金村委員，河野委員，佐藤委員，谷委員，  
土井委員，中島委員，西村委員，藤田委員，三木委員

### 4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

「徳島県西部圏域振興計画（第4期）～にし阿波振興計画～」の策定について

(3) 意見交換

(4) 閉会

### 5 配付資料

資料1 徳島県西部地域政策総合会議委員名簿

資料2 令和元年度第1回徳島県西部地域政策総合会議 配席図

資料3 徳島県西部地域政策総合会議設置要綱

資料4 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）～にし阿波振興計画～」(最終案)  
の概要について

資料5 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）～にし阿波振興計画～」(最終案)

資料6 「徳島県西部圏域振興計画」(素案)に係るパブリックコメントの  
結果概要について

### 6 議事概要

(副局長)

ただ今より，令和元年度第1回徳島県西部地域政策総合会議を開催します。

私は進行役を務めさせていただき，西部総合県民局副局長の大塚でございます。

はじめに，近藤委員，澤田委員，西川委員，野田委員，平尾委員の5名の方から欠席の御連絡を頂いております。

本日は，世界農業遺産の認定地域の一つ，美馬市穴吹町湊名地区で作られたお茶を御用意しておりますので，お召し上がりください。

徳島県西部地域政策総合会議設置要綱第5条の規定により，西部総合県民局長が会議

の議長となり、議事を進行することとなっておりますので、以後の議事進行については、局長が行います。

(局長)

本日は委員の皆様方，市長，町長，評価部会長，副部会長はじめ，お忙しい中，御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

前回の会議では、新しい西部圏域振興計画第4期の方向性について、御意見を頂いたところでございますが、本日は行動計画を含む計画全体を説明させていただいた後に、この計画の他、圏域の振興全般について御意見を賜りたいと存じております。

議事の内容については、事務局で、会議録を作成し、内容を御確認いただいた上で、名前を除き、県のホームページで公開させていただきたいので、予め御了承いただくようお願い申し上げます。

それでは、徳島県西部圏域振興計画（第4期）の策定について、事務局から一括して説明させていただきます。

(事務局)

(資料4，5，6に基づき説明)

(局長)

徳島県西部圏域振興計画（第4期）案や圏域の振興全般について、御意見お伺いします。

(委員)

長期ビジョンの3章の3の「森林資源の大半を占める大径材が、にし阿波産木材として多くの住宅部材に利用され、地域林業の活性化が図られています。」という形で、長期ビジョンの中には記載されております。

この場でお願いという形なんですけど、地域経済の活性化に林業従事者の確保というのが不可欠であろうかと思っております。林業の若手の従事者がどんどん増えてきているという形の中で、その人たちが住みやすい、そしてまた、その地域の林業の中で生業として成り立つようなこと、40年後に成り立っているということは、非常に大事じゃないかなと私たちは思っております。

その中で質問という形になるんですけど、今年度からスタートするという話をお聞きしております、「スマート林業プロジェクト」がスタートする中で、概要をお聞きしたいと思っております。

(委員)

資料5のP42, 重点項目1で, 「観光・移住・交流による地域活力の創生」というところで, すばらしい数値目標が掲げられているなど思っております。外国人の延べ宿泊者数も30倍ほど増えまして, 目で見ると外国人の方増えたなという認識は, 観光事業者としても思っています。

このにし阿波の観光圏というのは, 「住んでよし」, 「訪れてよし」と2つ観光立国の理念として掲げられているんですけども, 「訪れてよし」というのは数値目標を掲げて取り組まれています, なかなか, 「住んでよし」というところまでは, 行き着いていないのかなというのは正直なところ思っております。

この数値目標を掲げるというのは非常に難しい, 地域の方が, 自分の地域に住んで, どのくらい満足しているかというのは, 数値目標としては非常に難しいところだとは思いますが, 自らの地域を愛して誇りを持って暮らしているのであれば, 訪れたいかなというのが, 「住んでよし」, 「訪れてよし」ということで, 2003年の「観光立国懇談会報告書」において観光立国の理念として掲げられておりますので, やはり「訪れてよし」だけではなく, 「住んでよし」の部分で, 今後どのように考えられているのかな, というところをお伺いしたいと思っております。

(委員)

弊社の取組みを紹介させていただいて, 今後の西部の政策のヒントになればと思っております。

昨年12月に, 下駄カフェをオープンしました。東みよし町の特産品である下駄を販売しています。手に取ってもらったり, 履いてもらったりして, 下駄の情報・魅力を発信していこうと取り組んでいます, カフェのコンセプトが, 地域資源の活用と地域住民のコミュニティの範となることです。

コンセプトの一環として, カフェで提供している食事は, 地元, 泉野という山間部の方と契約して, 野菜を使わせていただいている, その野菜というのは世界農業遺産で, 傾斜地農法で作られている野菜でして, 提携して, 料理を提供させていただいています。

取組みのポイントとして, 農業遺産の野菜, 「出口」として「一方通行」というか, どうやって売ろうかという観点でみなさん取り組まれていると思うんですけども, 弊社は農家さんと提携して, カフェで出るコーヒー豆のかすをトマトの病気の予防であるとか, 害虫の駆除に使ってもらってますし, 卵の殻を肥料として, キュウリの艶が出るとか, 育ちがいいとか, そういった形で使わせていただいています。

「一方通行」じゃなくて「双方向」, インタラクティブな取組みが循環型という形で繋がっていると思います。ひいてはSDGsの持続可能な地域という意味でも, すごくマッチしていると思っております。

これを, できれば, 少し取組みが広がったらいいなと思っております。

県の方には, こういった取組みがあるよ, 循環型でこういったことができるよ, と情報発信させていただいて, その先に徳島県が, またにし阿波が, 全国における地方創生のリーダーとして, 情報発信ができるんじゃないかなと思っております。

その先の「出口」として、地域でそういった取組みをしているということ、視察に来ていただいて、また視察に来た人が野菜を食べて、地元の業者さんが潤っていくという好循環を創っていくことが、もしかしたら可能なんじゃないかなと思ってます。

こういった取組みを少し御紹介させていただいて、西部の政策の立案のヒントになればなと思ってます。

(委員)

美馬市長が、この地域ほど可能性に満ちたところはないと話されている。私もまったく同感なんです。いい場所だなあ、すごい場所に生まれてきたなあ、頑張らないかんといつも言い聞かせているんです。

いまだに徳島市内に、会で行って顔なじみに会くと、これからお帰りになるんですか、遠方で大変というても、高速道路がちゃんとできて、一緒に乗っている人と話が済まないうちに脇町ICに着いてしまって、もっと遠かったらいいのにと思うんですけど、東の方に、未だに遠いところにあるように言われるんです。

こんなにいい場所でありながら、人口の減少率の資料を見せていただいたら、県全体の他の地域よりも厳しいということに少なからずショックを受けています。こんなに素晴らしい街なのに。

だからこれは、こんなに素晴らしい街だということが分かったらんのかなと、もう一回、外国人とか遠方の人もいいですけども、県内全域にもう一回、西部圏域の良さというのをアピールしないといけないというのをつくづく感じております。

令和元年の、このめでたい年に、飯泉知事が全国知事会長に就任ということで、本当におめでとうございます。知事のお名前、「いい・いずみ」ですから、そこから未来に向かって無限の知恵がわき出る、今まで以上にわき出ることを、これからも御期待申し上げます。

美馬市長とよく話をする、西部圏域の中核地域として、もっともっと良さをPRして、四国の中心ですから、徳島県の地図だけで見たらちょっと遠いところかもしれませんが、四国の地図見ていただいたら、これだけのすごい委員の若手の方がいる。私の孫のような方もいるんじゃないですか、非常に力強く感じる次第です。

(委員)

西部圏域振興計画（第4期）の中に、スポーツツーリズムについて、P45～P46に書かれておまして、着実な推進ができますよう、よろしくお願いします。

生涯スポーツを進めてきた、うだつコミュニティクラブの16年の活動から見てきた地域振興についてお話できたと思います。現在県下には、36の総合型地域スポーツクラブがあります。それぞれの地域性を活かしたスポーツクラブです。地域の生涯スポーツの中核となって活動しております。

なかでも、当時の脇町からの要請を受け早期に設立いたしました当クラブは、経年の変化を感じているところです。この地域で特に進んでいる少子化と高齢化問題でありま

す。

この2件について具体的に申し上げますと、少子化は学校のスポーツの変化、高齢化は交通・移動手段の2つのことが、2～3年前から大変気になっております。

学校内では、近年、学校の部活のやり方が変わってきており、スポーツの多様化でいろんなスポーツを選択する子どもたちができたのと、少子化もあると思いますが、各中学校部活におきまして、部活活動が困難になっている種目ができています。

今までスポーツクラブでは、「スポーツが好きな子を育てましょう」ということで、5歳から受け入れて、4年生からはバレーボールやバスケットボールなどを指導しており、クラブで活動した人が全国大会に出るなど、すごく活躍しています。

小さいときはスポーツは何をしてもいいかなと思いますが、最近はテレビなどの影響もあり、子どもたちのやりたいことが非常にはっきりしています。

今現在、スポーツクラブでは、夜の部に、卓球やバドミントンへの親子での参加が目立つようになりました。私たちのスポーツクラブは地域と連携しておりまして、障がい児を2施設から受け入れております。50から60名の中で約半数が施設からの児童の参加です。

特に申しておきたいと思っておりますのは、21年から障がい児の事業に取り組みまして、今は非常にお互いがお互いのいいところを見習いながら、いいところを吸収し、スムーズに行くようになりまして、本当にこれはよかったと思っています。

しかし、中学校の部活は地域で受け入れるにあたり、クラブでは非常に困難ですので、これからは各教室でいろいろなスポーツが体験できるような講習会を開催するなど、子どもは競技スポーツへの移行も望んでおりますので、そういった形で、地域の方々にそれから県関係の皆様にご協力いただきながら、子どものスポーツの協働に取り組んでいきたいと思っております。

それからもう一つ気になるのが、高齢化に伴う大きな問題でございます。

それは交通手段です。スポーツクラブももう設立して16年になりますが、その前からいいますと20年になります。そこには市から委嘱を受けましたスポーツ推進委員という、スポーツに精通した企画運営ができる方が育っておりまして、その人たちがすべてのことを指導してくださっております。

最近、木屋平のNPOによる運送事業、そこからカローリング交流大会を月1回開催しておりますが、当クラブ30名、それから木屋平から来る人数がだいたい25から30名、多いときで60名位の方が一緒に交流大会を開催しております。

17年から続いておりますので、60歳から始めた方がもう80になり、「免許証返納したら、私、来られないよ。」というような意見も聞きましたので、これは非常にいけないと危惧しています。

多々いろんなところから交通の問題は出ておりますが、ここは再度、そういったコミュニティバスをだすなど、新たな取組みができれば、スポーツクラブの浸透、それから高齢者の行動範囲が広がります。これからは超高齢社会ですので、広く働いてもらわないといけません。90歳でも非常に地域を引っ張っていただいたり、地区を集約して、80歳を過ぎてからも地域の人をスポーツに引き込んだりしてくれています。交通の問題は本当に考えていただけたらという問題であります。

それから、私の地域で感じておりますことは、にし阿波全体で同様な状況が起こっていると思いますので、生涯スポーツも一層力を入れていきまして、地域住民にスポーツとか交通の不便性、身近に出向いていただきまして、アンケートそれから地域住民の検討会をするなどして、これから30年、高齢化になりますので、そうした人が元気で悔いのない人生を送れるよう、よろしく願いできたらと思います。

終わりにになりましたが、総合型スポーツクラブは、スポーツ市民、競技スポーツじゃなくて、地域生涯スポーツに色が濃いです。文部科学省から始まりましたこの事業が、現在、スポーツ協会に移行しまして、総合型スポーツクラブは、地域住民が主体的に運動し、なおかつボランティア。今現在スポーツ推進員が15人、そしてクラブのボランティア。これは各教室、バドミントン45回から50回開催しておりますが、相互二人体制で、その趣旨に賛同して、昔全国大会に出た方やスポーツが好きな方が、非常に精力的に手伝ってくれており、低料金で運営できています。

そしてこれからは、交通手段ができることにより、地域の商店街、それから、にし阿波には西部防災館、別館の体育館、そういった施設。これからは高齢者の社会の時代で、高齢者は交通手段さえあれば、ちゃっ行って仕事します。それと戦中・戦前・戦後と生きてきましたので、非常に忍耐力があります。その力を利用しつつ、今後、環境のいい地域に、事業を展開いたしまして、多くの人に来てもらえると、また違った形で、にし阿波という形で高齢者が元気な街を目指していただくよう、御協力いただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

(委員)

最初に「食と農の景勝地、にし阿波桃源郷」のHPを拝見いたしました。体験するメニューもあり、私たちも非常に興味のあるものですが、決済は現金のみでございます。キャッシュレスの流れがありますので、これは是非とも県の方からも御提案していただけたらと思います。

また、振興計画の重点項目3「誰もが安全で安心できる地域社会の形成」のところで、西部総合県民局の改修は、今起こるかもしれない災害の発生ということを考えますと、早急にとりかかっていたいただきたいと思います。その中の3、「地域で地域を守る活動の推進」のところで、課題として高齢者で車を運転しない方のための取組みというところがあります。私の母も、隣の町までスイミングに通っているんですが、ここのところ、御提案したいんですが、重なりますので、省きます。

それから地域の町内会で防災の話がありまして、参加しましたら上映会の後、話し合いが行われたんですが、説明する方が誰もおらず、情報もなく、参加者のなかには、自分はもう年だし、建物も古いから、そのときが来たら家が潰れてしまうからもう逃げないというようなお声や、足腰の弱い私はもう家の中で被災するしかない、というような声も多く聞こえました。

こういった不安は知識不足や準備不足から来るものなので、これは広域連合の方にお願ひするのかもしれませんが、取組みの中に出前講座などありましたので、講座の訓練の対象範囲などもう少し詳しくお聞かせいただけたら、町内会へ持ち帰りたいと思

います。

また、先日、「四国酒祭り」の実行委員会を開催し、日程と場所が決定いたしました。令和2年2月22日、場所は三好の総合体育館です。この体育館を会場とすることは決まりましたが、今後これを継続するにあたって、困難なこともありまして、これは三好市も含め皆様方にも御理解と御支援を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

PRとしてこの31日、土曜日なんです、池田町の中心市街地におきまして、「四国酒祭り夏の陣」を開催いたします。

また9月14日には、徳島県県民文化課と連携いたしまして、「池田Jazz横丁2019」、「池田まちなか音楽祭2019」を開催いたします。

「四国酒祭り」で日本酒のイメージのある池田町でお酒を飲みながら、ジャズを中心に生演奏と大人の夜を楽しんでいただきたいと思いますので、是非お立ち寄りください。

また、前回もお話しました、池田のまちなか観光化について現在、他団体にもお声がけをして進めております。

三好市大歩危祖谷は関係各位の御尽力により、12年間でインバウンド宿泊数は30倍超えとなり、世界的に圧倒的な支持を得ております。私たちが池田町を観光地の入口施設としてお客様を池田のまちなかに誘客することでまちなかの振興につなげられればということを目指して、酒蔵見学・酒蔵の試飲・ジオツアーなど、2・3時間からのプログラムから回遊型のプログラムまでコンテンツを増やしていきたいと計画中です。

5月の大型連休を利用して開催しました、「いけだ薫風まちあるき」が大変好評で、地元の方々からもこんな楽しみ方ができるんだなどお褒めのことばをいただきました。開催した私たちが、この建物の価値や文化そして、この地に根付くおもてなしの心が、その輪を広げていくのだと確信いたしました。

この地域は、トリプル認定を受けた地でもありますし、大歩危祖谷の秘境、吉野川のウォータースポーツ、また私、十周年を迎えた「つるぎクラブ」の会員ですが、にし阿波全体でみるとさらに選択肢が増えてまいります。

二次交通の問題はありますが、皆様の御協力を頂きながらさらにコンテンツを増やして、この地域全体で盛り上げていければと思っています。

この地域全体がブランド化されることで、地域に誇りを持って、「住んでよし」となればそれが移住者を呼び、そこにまた新たなビジネスが生まれ、経済効果も生まれます。そうして私どもの会議所の会員様も増えるということにつながります。

今年度は「ラグビーワールドカップ」、来年度以降も「東京オリパラ」、「関西マスターズ」など、地方への交流人口の大幅な増加も見込まれます。このチャンスを活かしたいと存じますので、今後とも、是非、御指導、御支援をよろしくお願ひします。

最後に動物愛護に関しまして、議会では知事自らが御答弁いただき御理解を示してくださいましたこと、「わんにゃんにゃん」の方も大変喜んでおりました。また災害時のペット対策、相談コーナーなど、旧三好郡内で開催してまいりましたが、その際には、愛護センター、三好保健所担当者の皆様には、格別の御配慮、御協力を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

今年度、殺処分ゼロに向けて重要課題であります、野良猫の増加を抑えるために、避

妊去勢の大規模な合同手術を計画しております。スキルアップを目指し、目標に向かって頑張っていきたいと思っておりますので、御指導、御協力を賜りますようお願いいたします。

(局長)

何点か、御質問をいただいておりますので、事務局の方からお願いします。

(事務局)

まず、「スマート林業プロジェクト」の概要について、説明させていただきます。

本県では平成17年から4次にわたる「林業プロジェクト」によりまして、生産・流通・加工体制を構築するとともに林業アカデミーの開校など、担い手育成に取り組んでまいりました。

こうした中、森林経営管理法に基づいて、新たな森林管理システムの開始や、5Gをはじめとした最新技術の急速な発展など、新たな環境の変化に伴う対策を盛り込み、今年度から「新たなスマート林業プロジェクト」がスタートしております。このプロジェクトでは10年後の戦略を強化して、県産材の生産消費量を70万立方、新規林業就業者数を800人と定めまして、森林林業を核とした地方創生の実現を目指すこととしております。

また、目標実現に向けた、今後4年間の施策としまして、航空レーザー・ドローン、歩行用アシストスーツなどを利用しました効率的な林業施行や木材生産の確立、IoTやAIの技術を木材の流通や加工に活用した効率的な流通加工体制の整備、木育の推進や県外・海外の販売の促進など、川上から川下において、展開することとしております。

そして「スマート林業プロジェクト」を推進することによりまして、山村で多くの若者が林業に従事し、次世代への継承に向けた取組みを進めながら、林業が成長産業となり、地域の雇用の確保や経済の循環・発展が図られるよう、取り組んでまいります。

(事務局)

「住んでよし」の部分で、どのように取り組んでいくのかという御質問をいただきました。

局としましては、観光振興の中でも、特に住民が参加する事業というのに、今後非常に力を入れていきたいと考えております。

例えば、にし阿波を体感していただくプログラムとしまして、「あわこい」をやっておるんですけど、実施者とより強い連携をして、参画を促していく、また体験型教育旅行の受入れの拡大と緊急時のフォローアップ体制に取り組んでいっているところなんですけど、そういった中でも、住民の方に参画をどんどんしていただく。

さらには、にし阿波の魅力や地域資源の開発等を図る事業、あるいは取組みに対して助成制度を設けてみたりとか、そういった検討も始めていきたいなと思っております。



そういったことを通じまして、広い世代の方に観光振興を發して、また住んでよい地域づくりに関わっていただくよう、取組みを進めていきたいと思っております。

(事務局)

地域公共交通の確保について、防災関係について御質問いただきました。

地域公共交通の維持確保につきましては、例えば、運転免許返納後の高齢者や学生の移動手段の確保、および訪日外国人旅行者などの二次交通として、公共交通の重要性はますます高まってきているところでございます。

こうした中、三好市におかれましては、昨年度、二次交通対策JR利用訪日外国人向け、大歩危祖谷バス運行実証実験に取り組みまして、今年度から、四国交通による営業運行が始まっております。

今後の公共交通のあり方を示す、「次世代地域公共交通ビジョン」の年内策定を目指し取り組んでいるところでございます。

さらに県西部におきまして、美馬市のデマンドバスでありますとか、先ほど委員からお話がありました「NPO法人こやだいら」による過疎地有償運送、あるいはつるぎ町のコミュニティバス、東みよし町では高齢者移送サービス事業といたしまして、デマンド方式による運行が行われております。

また、三好市においては、高齢者が日常に必要なタクシーを利用する場合に、利用料金の一部を助成するなど様々な支援策が講じられているところでございます。

県ではこれまで財政的に厳しい状況にある過疎・準過疎地域を含む市町村に対しまして、コミュニティバスの運行経費の支援をしてきておりまして、今後ともこうした複合的な支援によりまして公共交通が維持確保できるよう、しっかりと取り組んで参りたいと考えております。

それと防災関係ですが、西部圏域におきましては、脆弱な地質と急峻な地形によりまして、土砂災害のリスクが高いわけでありましたが、急激な高齢化によりまして地域防災力の低下が懸念されているところでございます。

このため、にし阿波では、今年度自助の啓発を重点化いたしまして、圏域の全県民を対象といたしました、「命と暮らしを守る防災出前講座」というものを市町の皆さん方と連携して、各地に出向いて開催をしているところでございます。

同講座におきましては、水害や土砂災害から命を守る避難や南海トラフや中央構造線地震に備えた命と暮らしを守る耐震化や家具の固定について、特に時間を割きまして、講座を行っているところでございます。

共助を担う地域の防災リーダーである自治会の代表者の方々につきましては、積極的な御参加をいただきたいと考えておりまして、今後におきましても講座の広報周知あるいは連携につきましても働きかけてまいりたいと思っております。

(局長)

続いて、お願いします。

(委員)

子育てや生活困窮者支援など、各方面で多彩な取組みが予定されており、大いに期待しております。

特にその中で、多様な人材の活躍を見据え、ダイバーシティ社会の推進という項目は非常に重要な視点であると思いました。東みよし町社会福祉協議会では、多様な人材の活用という点では、高齢者に対して二つの事業を展開しておりますので、その事業を簡単に紹介したいと思います。

まず、シルバー大学校大学院の取組みですが、令和元年度の受講者数はシルバー大学校31名、これは総合コースとICTコースに分かれています。シルバー大学院は27名となっております。この卒業生は、地域でのボランティアやサロン活動のリーダー的存在として活躍されています。

次に、シルバー人材センターについての取組みについてですが、7月末現在の登録者数は98名で、個人や企業だったり、行政からの依頼で除草作業などを行っております。

町外に住まわれている方で、家屋やお墓が東みよし町内にあり、管理が困難で人材センターに依頼されるケースもあります。

このように生き生きと活躍されている高齢者はたくさんおいでますので、引き続き社協としても、高齢者の生きがいをづくりや社会貢献活動を支援していきたいと考えております。

一方、ダイバーシティ社会の実現に向けた多様な人材活用として、障がい者の活躍も重要であると考えております。

東みよし町社協では、ボッチャやフライングディスクなど、スポーツレクリエーション教室の開催を通じて、障がい者の引きこもり予防や、健康づくりに向け、社会参加の促進を支援していますが、就労支援という意味では十分な取組みを行えていないのが現状です。

そこで、障がい者の就労、自立支援の充実に向けて、2点ほど意見を述べさせていただきます。

まず、一点目ですが、障がい者の特性や能力に応じて、一般企業への就職が進んでいるところと認識しておりますが、障がい者が就職しやすいように、企業側における障がい者への理解促進であったり、ハローワークと連携した就職マッチング機会の創出など、障がい者の自立に向けた環境づくりに努めていただきたいと思います。

次に二点目ですが、一般企業等に就職が難しい障がい者は、いわゆる福祉的就労という形で福祉作業所で働いて、工賃を得ていますが、本日お集まりの区市町など、官公庁において、清掃作業や印刷業務など、障がい者を支援する事業所に必要な仕事の発注を積極的に行っていただくなど、障がい者の工賃アップに向けた支援をお願いしたいと思います。

少子高齢化により労働力人口の減少が懸念されている現状打破のためにも、障がい者の能力に応じた積極的な就労支援に努めていただきたいと思います。

(委員)

私が主に働いている電気保安業務では、店舗や施設の閉鎖や廃業のほうが多く、契約件数が減り、景気の後退を感じます。個人的には3月に子を授かり、将来にいろいろな思いをはせているところです。

人口減少はどここの地方でも問題ですが、徳島県の選挙の投票率が全国で最低だったという現状は、この県の将来に期待が薄いということを感じます。隣の県に行けばよいと考えたりします。山のほうも良いところという人もいますが、そう思っていない人のほうが多く、自分たちのところの良さがわかっていないというところがあるのではないかと思います。

この状況の改善には人の交流が重要ではないかと思います。その観点で、随所にみられる中断している道路工事や高速道路の片側二車線化は早く完遂し県の東西、また外からもっと人が入ってくる環境を整えてほしいです。

移住を推進していますが、Uターンなどの今住んでいる人の後継者に戻ってもらうことを支援すると、空き家対策にもなるのではないのでしょうか。今一度、これから住み続けるための問題点をヒアリングしていただきたいです。

山の地域も活性化を図りたいところですが、防災のことが懸念されます。私が山を下りて電気保安業に移った理由でもあります。私がいた集落は、世界農業遺産にも認定された傾斜地農耕をアピールしたいようなところでした。しかし、“住んでいてはまずい＝危ない”と感じもしました。かといって、生産性が薄く返せる可能性がないのに、補助金をつかって防災対策してもらうのも心苦しく、違うのではないかと思います。ハード的な対策をするにしても、その地域の将来性など考慮して、地域の選定するのはしようがないとも思います。

正直、私も思います。山の地域の地域活性、そのための防災対策などは正直いって重荷で、厄介だともうかもしれません。しかしながら、徳島県は山の地域がほとんどで、そこに住んできた人がいるからこそ今があるということを考えれば、今後の観光に山の地域を生かさないと徳島県らしさはないと思います。

私が期待する防災についてですが、住んでいる人がもっと実感できるアラームが必要ではないかと思います。危険区域の指定や、危険レベルを示す情報が示されるようになりましたが、実際に住んでいる人の感覚とは違うようです。先日の大雨の時、経験のないレベルの大雨になるからと、山に残った婆さんに避難するように頼みましたが婆さんは山から下りませんでした。助けたい気持ちもありますが、長くそこで生きてきた人と言える立場ではないというところもありしょうがないところもあります。ただ、アラームの仕方については、GPSなどの新しい技術を使ってもっと動的に体感的に危険性を伝える必要があるのではないかと思います。住むのに確実に安全といえることは難しいですし、自己責任の部分もありますが、より詳しい情報を持つことで、安心して住める人が多くなるといいと思います。そうして、傾斜地農業も続けられることも期待しています。

私が生活基盤を下にして、山には週一回ぐらいしか上がらなくなると（婆さんは山にいますが）、農作物への鳥獣被害が進み、口にできるものがますます少なくなってきました。

います。私は罨猟免許を取って狩猟を試みましたが、仕留めること、またどこかへ移動することはとても難しく、初心者として負担でした。ジビエ料理への活用などで狩猟の推進を検討していると思いますが、狩猟期間、害獣駆除機関という枠は狩猟に制約感がありました。年間を通して対価になる仕組みや、動物の移送を専門とする人がいれば、もう少し狩猟がしやすくなるのではないかと思います。

地域活性化の観点で美馬市に大きな工場が建設されましたが、建物のデザインや様相が地元の人にとって違和感があり、威圧的に感じます。地域を環境保護や景観の観点で売りにしていこうと思ったときに問題であると感じています。規模によると思いますが、このような建設工事に対して審査の仕組みなどはなかったのかと疑問に感じています。

子育てに関してですが、西方面に大きな図書館がありません。美馬市にありますが利用は市民に限定されているようです。周辺の住民も使えるようにしていただけないでしょうか？

最後に、この政策の策定において数値目標を挙げていて、それは大事なことだと思いますが、実績を上げやすいところから取り掛かり、難しいところを後回しにして、問題などが置き去りにされるようなことがないようにしていただきたいです。

(委員)

観光業に従事しておりますので、観光について申し上げます。

P 1 4 の外国人宿泊数のところですが、前回も、H 2 9 に 2 8,8 2 4 人という数字が出てるんですけど、大きなホテルで調べた数ではないかっていうことを申し上げて、小さい民泊まで数えて欲しいっていうことを言ったんですが、この数字は小さな民泊まで入っているのかが、まず一つでございます。

私、山城町なんですけど、今年に入って、民泊が4つ増えました。地元の方ばかりでして、30代の若い人から70代のおばちゃんまで、民泊を始めました、「Airbnb」を入れると、海外の方がびっくりするくらい、特に夏は来てくれるらしいんです、目的はラフティングとか、山をじっとみたいとか、川で遊びたいっていうのが多いようです。

4つほど新しく民泊ができておりますので、そういうところも外国人宿泊数拾って数に入れるようにしたら、どんどん上がってくるんじゃないかなと、すぐ3万いくんじゃないかなっていうことを、思っております。

小さくやっているところでも分かっていたくために、官のほうでアンケートをとってほしいなど。25%、7段階のうち一番上まで、いきたいのもあるので、小さいところとか、宿泊所のない立ち寄りところ、大歩危で自分のところしか分からないんですけど、大歩危でいうと道の駅とか、私のところも宿泊はありませんので、立ち寄り、海外の方よく見かけるんですけど、今いるスタッフではアンケートのところまでいかないんです。大変英語が上手ということもないので、どこから来ましたかぐらい、うまく聞けませんので、アンケート、忙しい日にとっていただけたら、海外の方の動向がわかるのかなと思っております。

それと、宿泊が増えてきたら、緊急時、例えば台風のとときとか、山城の方は道。こないだも高知の方がおりましたので、道路規制がありました。そういうことを、海外の泊まっている方に避難対策というのは必要だろうと思います。

この間、徳島新聞をみたところ、西の方は無かったと思いますので、理由は今まで作ったことがないからと書かれてたので、是非、作っていただきたいなと思います。

あと、私たちも過疎化で住民が減少しております。納税者が減るんじゃないか、どんどん減っていくと思っております。私の住んでいる山城町は、昔でいう川口銀座と言います、お店もあり、郵便局もあり素晴らしい町民がみな集まる場所だったんです。

ところが今、お店が全部シャッター街になりまして、私は山城町大川持の第一班の二組なんです。そこがもう限界集落です。私を含め65歳以上が半数を占めております。若い人が帰ってきておりません。

どんどんこういう状態になっていきますので、今ここに掲げてくれる、使ってくれる金額2万7千円を3万円に上げると、少しでもお金が、入ってくることになります。その3千円をどうするかというと、魅力あるお土産とかおいしい食事、であれば、おのずと落としてくれる金額が増えていくだろうと、それと魅力あるイベント、体験のアクティビティをつくれれば、3千円アップはできるんじゃないかと、体験アクティビティについては、オンリーワンであること、どこにもないようなもの、ほんものであることを重視して、三好市の市長もおいででてるんですが、三好市まるごと観光戦略課と、できれば、アジア初となるようなバンジージャンプを準備しているところです。

イベントにつきましては、徳島県と三好市に後援していただいております、2021年のワールドマスターズゲームズ、オープン競技ですが、ラフティング入っておりますので、県民局の皆さんにもチームを作っていただいて、参加して欲しいなと、是非是非と思っております。

まだ3年ありますので、十分練習できると思っております。今このワールドマスターズゲームズ3年かけて、たくさんの方が三好の方に訪れてくれるように、にし阿波の方を探訪してくれるように、準備を進めているところでございます。観光のことは質問もありましたけど、よろしく願いいたします。

もう一つ、観光と全然別なんですけども、犬猫殺処分についてなんですけど、私たちのところ大変山間部が多いので、よく犬猫が捨てられております。国道の草むらの中に捨てられたり、ってことが大変あります。その犬が愛護センターに行かずに野良犬になってしまうことが多数あります。

野良犬は、野良犬になったんでなくて、人間に捨てられたか、人間によって避妊手術をしてない犬がまた子どもを産んでってことで、これは人間が作り出したことですので、人間がいい方向にどうにか対処できないかってことを考えていただきたいなと思っております。

(委員)

まずは子育ての部分から、資料5のP67「ひとり親家庭や発達障がい児への支援」というところで、発達障がい児などの、うちでやっている民間の長期休みの児童クラブ

にたくさんの方が来てくださいます。その中でやはり社会となかなか馴染めず、小学校では浮いた存在ではあるけども、私たちの施設に来てくれるとなんら問題なく生活できるお子さんがたくさんいて、そういう子たちの生きていく能力をもっともって付けてあげて、社会に出たときに、何の違和感なく社会で一つの役割を担って、生活できるんじゃないかなと日々感じています。

都会に比べて、にし阿波の田舎での生活っていうのは、障がいをもつお子さんにも、すごくプラスな環境だと思います。今、移住も促進しているなかで、一つの切り口として使えるかなって、言い方はあると思いますが、こういうお子さんにも馴染んで生活してもらって、サポートが、より強くできることによって、子どもたちの可能性をプラスしていけるんじゃないかと思いますので、一つの提案としてお話をさせていただきました。

あと、P68の子どもの健やかな健康づくりを推進するための教育機関との連携というところで、ここに対して私の方からは、教育機関と連携して地域づくりということプラスしていただけないかなというのが要望でございます。ここにも連携している学校が、健康づくりに関しては14校が目標として15校がずっと続いているというのが、常々思っているんですけど、同じ三好市の小学校に行っているけども小学校によって受けられる教育が違っている。特にキャリア教育に関しては、差がすごく大きく出ているっていうのが、すごく違和感を感じています。

校長先生によって学校が変わってしまうというのは仕方がないことかと思いますが、やはり地域のことにしてもっとも地域の子どもたちが勉強して知って、将来の担い手として育っていくことが必要だと思いますので、にし阿波で37校小学校があるのであれば、37校全部が同じようにキャリア教育を受けられる環境に持って行っていただければと思います。地域で頑張っている人たちが学校に入っていくって、同じように地域の良さを伝えるっていうことも連携していけないかなという御要望を出させていただきます。

最後になりましたが、前回の3月の時にお話させてもらった、「ママの夢サミット」というものを、3月9日に開催させていただきました。75名のママたちで、夢について語り合いました。そこからいろいろな課題が見つかり、来月9月に一般社団法人を立ち上げようと思っております。

そこでは、ママ、地域、あと地元企業、行政を繋いでいくハブになればいいなと思っております。ここから、ママたちが地域でどれだけの課題を解決できるかっていうところになります。今回のこのSDGs、持続可能な地域をつくっていくためにも、昨年度、私のお店の方で、SDGsカードゲーム、ママたちに対してのイベントの開催予定を立てました。

しかし参加者は集まらず、SDGs自体の言葉を知らないという方がたくさんいて、世の中の状況にあんまり興味を持っていないママがやっぱり多いなっていう実感でした。

今年度一年経って、最近よく耳にする、目にするようになったけれども、じゃあどれだけたくさんの方が、去年とは違って知ってくれているかっていう。いろいろ周りの方にも聞いてみるんですけど、やっぱり私たちとは別の問題、特に関係はしていないと思っている方も多くて、そういうところをもっとも自分たち、身近な問題として、取

り組んでいかなければ、どんどんまた過疎が進んでいくと思いますので、もっと盛り上げるためにも、前回から言わしていただいております、リカレント教育、ママたちの学びの場が必要だと思っておりますので、ここも一緒にしていければと思います。

一つ御要望というか、御提案といいますか、今私たち行政の方に対しては、こういうことしてくださいと御要望いつも出させていただいておりますが、反対に、じゃあママたち、私たちに、できることはないのだろうかということ。例えば徳島県の方から、じゃあママたちこういったことを担ってもらえませんかという御提案をいただいて、それを私たちに組み上げていながら、協力して地域をつくっていけないかと思っていますので、何かまた私たちにできることがあれば、是非、一緒に取り組んでいかせていただければと思います。ありがとうございます。

(委員)

私がこの地域政策総合会議の委員っていうのは、やっぱり主婦であって、障がいのある子どもを今育てているっていう目線から、いろいろ発言させていただいているんですけども、子どももこの4月から小学校に上がりました。

地元の小学校に毎日通わせていただいておりますけども、授業は特別支援クラスでお世話になっています。

娘が通っている小学校にはコミュニティスクールがしっかり根付いています。東みよし町は全部コミュニティスクールが入ってきているんですけども、コミュニティスクールっていうのも地域によって、全部がそれに合うかっていうとそうではないですよ。

その地域だからコミュニティスクールが合うっていう、地域性っていうのはやっぱりあると思います。

東みよし町はたぶんがっちり合っているのかなっていう風に思っていて、それを感じるの、放課後クラブっていうのがあって、そこにおじいちゃんおばあちゃんが昔の折り紙遊びとか、してくれたりするんですけども、娘もそこに参加して、その教えてくれたおばあちゃんが、お店のスーパーで会った時に、声をかけてくれて、あの子はこんな風にしてたよとか、声をかけてくれる、っていう、この子はやっぱり地域に育てられてるなっていう風にすごく感じます。

いろんな所で、そういう風に子ども見たよとか、いろんな声をかけてくれるので、私にとってすごくうれしいし、すごい育てやすい環境にあるなって思っています。

小学校に上がりまして、私も夫婦共働きということで、小学校の後の放課後の過ごし方ですけども、発達障がいのある娘は、前までは町外の、放課後デイサービスというところを利用させてもらっていたんですけども。東みよし町の小学校にある児童クラブにやっぱり行きたいなっていうのがありました。というのは、仕事場からも家からも近いですし、利便性があるっていうのと、同級生の子どもたちが声をかけてくれたんですね、なんで児童館に来ないのって。声を私にかけてきてくれて、他のデイサービス行きよんよって言うたら、えー来たらいいのに、もう面倒みてあげるのに、っていう風に子どもたちも声をかけてくれて、それを町の方にお話させてもらったら、見学行ってみたらということで、児童クラブを見学させてもらって、にぎやかな環境が好きな娘なので、

合っていたということで利用させてもらうことになりました。

毎日、学校終わった後は児童クラブに行ってます。こないだお迎えにいったときに、児童クラブの児童支援員さんになると思うんですが、知り合いのおばあちゃんがいたんです。えーってなって、えー来られてるんですか、と聞いたら、そうよー、と週に何回かこれから児童館で子どもたち見るよ、声をかけてくれて。また、その人からも娘がこうだったよと、教えてくれて、シニア世代の人がすごく入ってくれているっていうのは、私もそうですし、子どもたちもすごくいい影響だと思うんです。

シニアの方が輝ける町に、どんどんして行って欲しいなと思いました。

(局長)

ありがとうございました。

頂いた御意見については、しっかり参考にさせていただきますし、また後から、お答えしようと思えますけど、それでないものについては個別にまたお話させていただくものもあろうかと思えますので、特に手短にお答えするものがあればよろしくお願ひします。

(事務局)

まず、外国人宿泊者数に、民宿が入っているか、ということですが、以前に、御意見を頂きまして、できるだけ入れるようにしておりますので、よろしくお願ひします。

それから、アンケートですけども、昨年度、来訪者満足度調査、これを図る目的にで1, 117件、来訪者にアンケートしております。そのうちの538件がにし阿波地域の地点で出向きまして、聞き取り調査を行っております。今年度も引き続き行って参りたいと思ひます。

(事務局)

官民共同の地域づくりについて御質問をいただきました。

地域活力の主要な担い手として活躍する女性が増えまして、女性の視点・ママの視点や力が活かされて地域が活性化されていく。これにつきましては、非常に重要だと認識しております。

お話にもありましたように、さる3月に、美馬市脇町で開催された、「ママの夢サミット」に対しましては、西部総合県民局といたしましても、後援ならびに職員の参画という形で、御支援をさせていただいたところでございます。

今後とも、委員の御要望等をお聞きしながら、一人一人が、輝きチャレンジできる社会の実現について、しっかりと取り組んで参りたいと思ひます。

(局長)

評価部会長、副部会長、それぞれから御意見あればいただきたいと思ひます。



(部会長)

2点ほど手短かに、評価に直接か間接か、関係するかもというところでお話、意見、質問というより意見でございます。

お手元に、資料5として振興計画最終案をいただいておりますけども、ページで言うとP2になります。こちらに関わるのかと思うんですが、計画の基本方針というところで、PDCAという用語があつたりするんですが、もちろんこれも重要なんですが、最近ではEBPMというんですか、エビデンスに基づいた政策の立案というの也被われておろうかと思ひます。

もし、そのエビデンスに基づいたというのでも入れるのであれば、このあたりになるかなと、このページを参考にしながらかコメントをさせていただきます。

もう一つ、P39、こちらは第五章 行動計画で、ここから具体的な事業、数値目標が出てくるというところになるんですが、この冒頭最初のところが目標だと思ひますが、圏域の人口5万3千～6千というのがございます。

最近人口といういろいろな人口の概念のなかで、関係人口ということが言われたりするということもありますので、もしよろしければ、この例えば振興の視点のところ、こちらに目標の人口5万3千～6千というものと、この後に続く、この重点項目、あるいは、事業を繋ぐものして関係人口をいくらぐらいとかどうだということの也被っていいのかなと思ひました。以上、2点でございます。

(副部会長)

私も評価部会の立場から一言、お話しさせていただきます。

説明いただいた5つの重点項目があつたんですけども、これはすべて大事なことだと、考へておりますが、特に何人かの委員さんからもお話があつたように、3番目の「誰もが安全で安心できる地域社会の形成」っていうのは特に重要であるかと思ひます。これがすべての基本になるのではないかと思ひます。

海と山の違ひはあるんですが、東日本大震災における釜石の奇跡っていう話は、皆さん当然御存じだと思ひますけども、小学生、中学生、それからこの西部圏域を担う子どもたちの命を守るために、防災教育、あるいは避難訓練をしっかりとやっていかなければならないんじゃないかなと思ひます。

当然高齢者の方にも、もういいわって先ほどありましたけど、そうではなくて、山へ一緒に逃げようとか避難しようっていう声かけ、そういう訓練を同時にしていただければいいのかなって思ひます。

今回の計画これから4年間実施される訳なんですけども、この実績を見ながら、3番目のあたりをしっかりと評価させていただきたいなと思ひておりますので、よろしく願ひいたします。以上です。

(局長)

ありがとうございました。

今日、参加していただいている、市長さん町長さんにもお願いしたいと思います。

まず美馬市長さんからお願いします。

(美馬市長)

まずこのたびは、全国知事会会長、就任、おめでとうございます。

知事はじめ皆様方におかれましては、常日頃から本市行政各般にわたりまして、格段の御理解、御協力賜っておりますことに対しましてもこの場をお借りしましてお礼申し上げる次第でございますが、

恒例でございますので、我が町が今、進めております特に3つの事業、施策について御説明をさせていただき、そして先ほど、委員の皆様方から、我が町に関します、いろいろな御質問、私どもできる範囲でこれに対してもお答えしてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

まずは「美馬市版S I B」、「ヴォルティスコンディショニングプログラム」についてでございます。「S I B」といいますのは、ソーシャルインパクトボンドと言いまして、行政サービスや行政課題を民間のNPOや企業に委託をし、民間の資金提供者から調達した資金を元に事業を行い、事業があらかじめ合意した成果を達成した場合のみに、行政から資金提供者に対して報酬が支払われるということで、このプログラムは、我が町のまちづくりの基本方針の「一丁目一番地」に掲げさせていただいております、「美と健康のまち、美馬市」ということで、我が町の産業構造では、美や健康に関する業種の企業が、非常に多く立地していただいております。

これらの企業と連携し、美馬市にすれば美しくなれる、美馬市にすれば健康になれる、こういうまちづくりを行っていかうと、その第一弾といたしまして、大塚製薬株式会社、また徳島ヴォルティス株式会社と本市と連携をいたしまして、取り組むものでございまして、本プログラムは、今年度から5年間で体幹を鍛えて、姿勢の悪さを矯正して、健康にそれを結びつけていかうというもので、20歳以上の市民、また延べ、1,800人対象といたしまして、運動機能や姿勢の改善により、運動習慣を定着させることを目的といたしております。

まず、本市の職員によりまして、プレということで実証実験をさせていただきまして、今第一クールが終わりまして、一般市民の皆様方に、第一グループの方々に、参加をしていただき、これもだいたい終わりまして、約100名の方、定員100名でして、非常に好評を得ていて、第二グループも募集をしておりまして、もう100名以上の方が、御応募いただいているということで、市民の健康に対する意識の強さというものを、痛感している次第でございます。

次に、うだつの町並み、周辺古民家等活用支援事業についてでございますが、総務省の交付金、ローカル10,000プロジェクトを活用いたしまして、うだつの町並みにあります、古民家2棟を株式会社美馬チャレンジが改修をし、ハイクラスの宿泊施設と飲食施設に再生するものでございます。この事業によりまして、空き家の活用はもとよ

り、通過型から滞在型の観光地へと転換し、観光消費額や景観保全の効果が生まれるものと期待しております。

最後に「NPO法人あらたえ」が行っている、「あらたえ調進」についてでございます。

1 1月に行われます天皇即位を最初の新嘗祭にあたります、大嘗祭におきまして、儀式に欠かすことができない「あらたえ」が、本市の木屋平地区から調進をされますことは、本市にとっても大変名誉なことでありまして、感慨無量の慶びでございます。

7月には麻を抜き取ります抜麻式や、抜き取った麻を湯通しする初蒸式が行われ、今月の7日は、麻糸を紡ぐ、初紡式が行われているところです。紡いだ麻糸は9月上旬に吉野川市の阿波忌部のあらたえ調進協議会に渡されることとなっております。これらの作業の様子というものを動画等で保存して、後生に伝えていきたいと思っております。

以上、3つの施策とともに、まず最初に、委員の皆様方の意見もございましたが、本市ほど魅力があって、安全安心なまちは無い、といつも痛感しており、これを十分に活かしてない、市長が常に責任を感じているところでございます。

穴吹川にいたしましても、日本一の清流、誰が見ても分かるわけでございますが、清流といえば高知県の四万十とか仁淀とか、名前がでてくる、非常にPR力が低い、劣っているなど痛感しております。今、穴吹川であらたな取組みとして、リバーパークスというような取組みも行われております。これからしっかりとPR・発信してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

それから少子化、学校の部活動、本当に競技数が少なくなって、指導する方々も非常に少なくなっていることがございまして、本市におきましては、外部コーチ制度でありますとか、作って子どもたちのスポーツに関する取組み、これをしっかりと支援をしてまいりたいと思っておりますので、また、指導の方の部分において御指導いただいたらと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

そして、木屋平の交通手段、本市におきましては、平坦部においては、デマンドバスを運転しておきまして、これは私が市議会議員のときにデマンドバスの提案をさせていただきました、実現しておるものでして、平坦部は利用者人数も多くなっているし、利便性も日増しに向上しているところでありますが、木屋平地区におきましては、NPO法人の過疎地有償運送がありますが、過疎地有償運送をしている方々も、高齢化になって難しくなっているということで、我が町のサマーレビューにおきましては、来年度から、木屋平地域内は過疎地有償運送で、また、木屋平から平坦部までの部分に関しては、コミュニティバスを利用してと、連携を図ってはどうかということで、実証実験を行って参りたいと思っておりますので、市民の皆様方、特に高齢者の皆様方の交通手段の確保と利便性の向上を追求してまいりたいと思っております。

最後に、工場が非常に威圧的だというお話もございましたが、あの場所は、美馬町の町会議員のときに、合併前のときに、工場誘致をしようとして計画をいたしまして、いよいよ今年秋には操業開始ということで非常に楽しみにしているところでございますが、我が町の市民におきましては、あれが一つの地方創生のシンボリックな、明るい、希望が持てる所と捉えている所でございます、環境負荷も最低限抑えるということで、工事もやっておりますし、もちろん、大規模工事に関しての景観審議会も通過しておりますし、

これから、二の矢、三の矢をしっかりと打って行かなければいけないという思いですので、御理解をいただけますようよろしくお願いします。

図書館に関しては、本市のミライズにおける図書館が昨年オープンしまして、2月で10万人を達成いたしました。図書館の利用に関しては、阿波市、つるぎ町、吉野川市の皆さんも非常によく利用されていると聞いているんですが、貸し出しですか。

少子化、人口減少、国難ともいえるひとつの課題、この中で行政を継続していくということにおいては、一つのまちに、一つの施設がなければならぬということは、無いと思いますし、これからは連携とか広域連合であるとかが、非常に重要になってくる部分でございますので、つるぎ町長と話をさせていただきまして、連携して努めていきたい、我が町におきまして、ミライズにおきまして、多くの人たちに立ち寄っていただいて、賑わいの創出ができる、我が町にとっても大きなメリットであると思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

(三好市長)

今から、三好市が生きていく、胸を張るまちづくりをどうするかということで、二つほど大きな視点からお話したいと思います。

一つはジオパーク。ジオパークを進めていくことによって、持続可能な社会、自分たちが住んでいるところが過去にどうあったのか、二億年前、一億年前、三千年前にどうだった、明治にどうだったとか、歴史を知ることによって、自分たちの地域が、これほど素晴らしい歴史や危険な状態にあったんだということを知ることができる、国内のジオパーク、世界のジオパークで認定を目指してやっつけよう、始めて4年目になってます。

先般も東みよし町の町長さんのほうに、三好市と東みよし町と一体で、三好市が722平方キロで、東みよし町が122ですから、844平方キロの旧三好地域をジオパークとして進めていきたいからと、お願いしているところです。

中央構造線とか大歩危小歩危とか祖谷とか、古墳とかありますが、ジオパークによって、シティプロモーション、三好市の宣伝をすることができるし、シティプライド、自分たちが住んでいるまちが、どういう歴史があるか、シティプライドをもってもらうことでシティプロモーションができる、そういった意味でのジオパークを進めていきたい。四国全体では、室戸岬のジオパーク、愛媛県の西予市がジオパークをしておりますが、これに続く三好市のジオパークをやっていくことによって、三野町における状況、昼間三好町における、旧三加茂町とか、身近な話でいうと、井川町の井ノ内が対岸から見えることを指摘されたこともあります。大歩危祖谷の中で言えば、かずら橋がジオパークとして、値打ちがあると言われておりますし、ジオパークを進めることで、シティプライドとシティプロモーション、そして地域の活性化、これが最終、観光というところに行き着くわけでありまして。

先ほど、バンジージャンプをどうするか、ジオにちなんでできることでありまして、やっていきたいと思っております。

2つ目は、三好市の面積が広いということで、いわゆる森林環境譲与税が今年度から

入りまして、三好市は5,400万円を国の方からいただけるようになっていますが、15年後には1億8千万円のお金が入るといふことでもありますから、三好市にとっては、将来に向けて税収が上がっていくといふことは、722平方キロの広大な面積に民有林があるといふことで、これを使って、まちづくりをしていく。

例えば、三好市は合併浄化槽でPFI方式をとっておりまして、四国でも一番三好市がすごいわけですが、全国的にもナンバーワンに位置するくらいのPFI方式をとっております。

持続可能な社会と考えれば、ジオパークと同時に森林環境譲与税を使って、PFI方式の市町村設置型合併浄化槽をさらに元気にしていく、それが使い方として山を守り、水を守り、環境を守るといふ意味では、こういった使い方も可能ではないかと大胆な提起もしているわけありまして、まちづくりのなかに大きく入り込んで、夢を抱く税制として使っていこうという考えをもっております。

この2つのことから、三好市に魅力を持つ、そして東京からもこちらに帰って住んでいただける、滞在型から居住型、そして永住型、二つのやり方でまちづくりをしていこうと思っております、また、県の方や、国の方にも御協力、御指導いただきながら進めていきたいと、2つの点でお話させていただきましたので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(つるぎ町長)

少子化対策とか空き家対策でられたんですけど、町でも議会内外から少子化、空き家対策、町長と。おまえが町長になってせえと。わしの4年の間はせんぞといふのが、持論なんですよ。

知事さんやは何もかも分かった上で、能力が違う。あれは都道府県や市町村がやるべきものじゃない、少子化対策は国の施策でやらないと、財源がとても足りない。

じゃあ、5年、10年スパンでいうと簡単にいうと50人増えたといふ人口が、我が町1人あたりで国から交付税が、だいたい50万から60万、来年の3月に知事さんの特別交付税がさじ加減でいただける、こんななかで、交付税がどんどん人口減少で落ちよんですよ。

50人60人増えたとして、掛ける単純計算で50万60万、じゃあ1人の職員を保育所、幼稚園と雇っていかないといけない、1人の職員20歳で雇って60歳まで。多分給料でおおかた2億からもっと要るんじゃないですか。

そんな割に合わん、商売人が町長になつとる。公務員から町長になつたらそうじゃなといふかもわからんけど。

そうした中で、とにもかくにも、そういう施策は打って出るわけにはいかん、今、4年という任期の中で、今日も随行しとる課長から、一言だけは、農業遺産を語れよと。ほなけど語る能力が無いんよ、机上の上ではどんな立派なこととも言える。

しかし、知事さん、市長や町長は、結果を出さないかん。きれいなことや、言い飛ばしで話できるんだったら、評論家やコメンテータになつたらいい、結果出さんことには、4年に一回の選挙飛ばされる。わしは死ぬまでやっちゃろうと思つとるけん、選挙を、

滑ったらもうできんけど。

農業遺産っていうものは、テーブルの上では立派なことできるんですよ。去年3月に世界農業遺産の認定、そして4月に認定式がヨーロッパの方であったと。傾斜地農耕システム、これは知事さんや県民局の人たち、また徳島大学の支援や応援をいただいてなんとかやっついこうと思うけど、いかんせん財源がついていかん。

潤沢に予算等々があればどんなにでもできる。しかし、後継者不足、最初に話した委員も、つるぎ町で産まれた不幸と思っとる。こんな町長の下で町民としておらないかん。

しかし、これは町民が決めた町長だから仕方がない。皆様方にいろんな御指摘、僕は評価いらんの、産まれながらにして悪口言われたり、怒られたらいいと思っている。死ぬまで。褒めてもらおうや思っとらん、皆さんの批判や要望等々をできるだけ受け止めて、せないかんことは役場売ってでもやっちゃろうとは思っとる。役場は売れんのでよ。それぐらいの気構えでありますから。引き続いてこりずに、どうぞよろしく頼みます。

(東みよし町長)

コミュニティスクールであったり、児童クラブの方で、地域の高齢者の方がちゃんと見守っていただいておりますと、我が町の施策について評価いただいたんじゃないかと思っております。

これが、将来的に行政の我々のすることが、子どもの結婚、子育て、すべてが循環型。エシカルにも通じるし、全部の施策が一通り回る方向で進めて行きたいと考えております。

今、東みよし町の高齢者のかた、非常に元気でありがたいことに、私の母親もコミュニティスクールに参加させていただいて、子どもたちと触れあいさせていただいておりますが、子どもたちが成長いたしましたら、今度は老人たちが痴呆りになった時に、お年寄りを今度は見守る立場に子どもたちになるんじゃないか、という期待もしております。

今、70、80代が非常に元気で、助かっております。いろいろ御助言いただいたり、やっていただいております。今うちの町では、総合計画、総合ビジョンを作成中ということで、前回のを評価しながら、新しい総合計画を作っておるところでございますが、パブリックコメントなり、アンケートなりを踏まえ、住民参画でしっかりとした将来のまち、子どもたちが生まれ育ってよかったなと思えるようなまちづくりをしっかりとしていく覚悟でございます。

また、皆様方、市町を飛び越えていろんな御意見お聞かせ願えたら幸いに存じますので、また引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

それと先ほど、三好市長からお話ございましたジオパークについて、三好市、わが東みよし町もそうなんです、三好市には三野町という飛び地があり、わが町も旧の三好町・三加茂町がはす向かいで合併している関係で、地理的にいびつな形をしており、わが町の小さな地縁が、点が線となり、大きな成果が期待できるんじゃないかと思っておりますので、簡単でございますが、どうぞありがとうございました。

(局長)

ありがとうございました。

それでは、最後に知事よろしく申し上げます。

(飯泉知事)

まずは委員の皆様、本当にどうもありがとうございました。

それぞれから積極的に、また西部に対する、愛、西部をいかに良くするか、こうした点で御提言をいただきました。

私の方からも何点か、お話を申し上げたいと思います。

まずは基本的な話として、各委員さんの方から、この西部の良さをもっともっと、PRすべきではないだろうか、というお話がありました。

これは、徳島県全体のPRにも相通じるところがあるわけでありまして、もちろんネットでの配信、あるいはその良さを体感いただくための、様々な、例えば、デモンストレーションのビデオであったり、映画であったり、また実際にきていただく、あるいは来ていただかなくても、仮想現実として体感をいただく、VRであったり、ARであったり。こうした様々な情報通信機器であったり、あるいは、IoT、ビッグデータ、AI、第4次産業革命こうしたものの技術、これを駆使をしてしっかりと、PR。これを行っていきたいと思います。

実は来月、もう間もなくであります、9月の5日、6日と、日本初開催となる「G20消費者政策国際会合」が、徳島クレメントホテルで、消費者庁と徳島県共催で開催いたします。

消費者庁が徳島から配給したさまざまな映像これをうまく編集をいたしまして、OEC Dをはじめ世界各地にPR。その中で半分以上、実は県西部なんですね。

ということで、G20ですが実際に参加していただく、国、あるいは機関は34カ国3機関、37カ国機関ということになりました。こうした意味でも県西部の魅力、世界の皆様にはピピッと感じる場所があるわけでありまして、しっかりとこうしたPR。様々な例えば世界大会、あるいは全国での発信をする機会、これを活用して行っていきたいと考えております。

また、スポーツについてお話をいただきました。生涯スポーツあるいは、高齢者のスポーツ、特に、ということで、実は今年から3大国際スポーツ大会、日本で開催され、徳島がキャンプ地あるいは競技地となるところで、競技地となるワールドマスターズゲームズは、こうしたPRをいただいたところであります。

ということで、いやがおうでも、徳島県内であらゆる皆さん方がスポーツをやってみよう、

こうした機運が高まっているところであります。

そこで来年は、東京パラリンピック大会が開催されるところでありますので、これを機会に、障がい者スポーツ、これを大いに発展をさせていこう。

特に、障がい児の皆さん方の適性を早い段階で見出していこう、パラスポーツアカデ

ミーを開講していく。またこれをバックアップするためのお医者さんをはじめ、様々な技術スキルをもった皆さん方を、人材バンクとして登録をしていただきまして、そして練習のときあるいは、大会で随行をしていただく、派遣をする。こうした体制を強力に、今とっているところでもあります。

また、もう一つは人生100年時代、100歳まで寝たきりになることなく、生涯現役で今、日本全体でこれを求めよう、進めようとしているところでもあります。

となりますと、やはり高齢者の皆様方が積極的に体を動かしていただく、フレイル対策、これが重要なんですね。フレイルの場合は、精神面と肉体面、両方が萎えてしまう、これがいわゆる寝たきりを、あるいは、認知症を引き起こしてしまう、これを打ち破っていく。

このためにはやはり、心身ともに健康でと。例えば、特別養護老人ホーム。本来は体のかかなり厳しい皆さんが生活をされているところではありますが、大きな広場があるんですね。

こうしたところで、例えば車いす。阿波踊り体操は椅子に座ってもできるバージョンもあるわけですし、体を動かしていくことで、車いすから今度は杖で、そして杖から歩くことが可能になるように。また地域のアクティブシニアの皆さん方にも、やはり若い皆さん方と混じって、スポーツクラブに行くにはちょっとね、こういう皆さん方も、そうした施設の中で行われる場合には、同世代の皆さん方が杖をついている、あるいは車いすに乗っている、場合によっては寝たきりになっている。こうした皆さんの姿を見るとやはり、自分たちももっともって元気で頑張ろうと。

そしてスポーツを行うだけでなく、平成29年度からスタートした、県版介護助手制度。今年はいよいよ国の制度となったわけで、我々としてはやはりもう一つ、若い皆さん方が大変御苦労いただいている、いわゆる保育の分野に今度はアクティブシニアの皆さん方に行っていただこうと。県版の保育助手制度、こちらをスタートするとともに、シルバー大学校、あるいはシルバー大学校大学院、こうしたところのまず基礎講座、必修科目として保育と介護。この基礎知識を今年度から入れさせていただくことといたしました。

こうしたことで100歳まで現役で、そして若い世代の皆さん方のいわゆる働き方改革。大きな支援をアクティブシニアの皆さん方にいただければと考えております。

また、地域交通の話がありました。

地域公共交通、徳島の場合は、まず鉄道を背骨として、そしてこれに対して路線バスを合わせる。そして先ほど、藤田市長さんからもお話がありましたが、デマンドバスであったり、あるいはコミュニティバスこれらを合わせる形で、地域の高齢者の皆さん方をはじめとする、皆さん方の足に。またインバウンドの皆さん方の、二次交通として、これを活用しよう。しかし、これらもないというエリアも実は、全県下ではあるんですね。

ここはいよいよ、来年から皆さん方がお持ちのスマートフォン。左の上には4Gと書いています。来年からはこれが5Gとなるところであります。

超高速大容量、そして超低遅延、多数同時接続、3種の神器とも呼ばれ、全く世界が変わってくる。でも日本では、これは最初には大都市部のみで展開しよう、地方は効率



が悪い、こうしたことになりますね。

つまり光ファイバーが引かれていなければ、なかなかこれを、Wi-Fiのスーパー版とだけ思っただけであれば結構でありますので、しかし徳島から提案をさしていただきまして、徳島県は全県下、特にこの県西部、光ファイバーがかなり張り巡らしてありますので、Wi-Fiはもちろんのこと、5Gを実証として徳島を実証の地に、しかも地方の場でどうだろうか。

これによってサテライトオフィスを車の中で実感することができる。動くサテライトオフィスをNTTドコモの皆さん方と、総務省の委託事業として行い、これが見事に実証をされ、やはり地域課題をこの5Gをはじめとする「Society 5.0」。この技術を駆使をして人手不足、あるいはスマート農業、スマート林業、「i-Construction」という公共事業の新たなあり方、こうしたものをまさに徳島県モデルとして展開をしていければ、このようにも考えているところでもあります。

その中でもこの5Gを使うことによって、地域にまだ残っているタクシーこれを共同配車をデマンド的に行っていく。すでにこの実証が徳島県の事業者によって山口県で、総務省とともに行い、これも成功したんですね。徳島の事業者でありますので、これを徳島県下で使い、そして高齢者の皆さんが免許を返納した後のその足として、あるいは地域の皆さん方の見守りに、またインバウンドの皆さん方の二次交通としても活用していく、新たな対策。こちらを行っていかうと考えております。

また障がい者就労、今、徳島県は福祉的就労を含め、障がい者の工賃全国第二位。一位が福井県。2万円を超えているのが徳島と福井のみということで、なんとしても福井、背中は見えているところでもありますので、さきほども御提案いただきましたが、我々としても各事業者の皆さん方とのマッチング、そして障がい者の皆さん方の特性をしっかりと理解をしていただいて、そして、工賃の日本一をしっかりと実現をしてみたいと考えております。

その意味ではテレワーク。今これを特別支援学校の皆さん方に体感をまずしていただいて、まず学校にいるときからそうしたスキルを磨き、いま人手不足もよく言われているおりますから、そうしたところで大いに活躍をしていただく。これを今後も強力に進めてまいりたいと考えております。

そして最後に、景観の話。工場の話は美馬市長さんからもお話がありました。世界最先端のもので、ということですね。

そこで、景観の点について、日本と海外少し差異があるんですね、ヨーロッパの諸国は景観権、こうしたものが確立をされております、日本も景観の様々な条例、徳島にもあるわけではありますが、しかしこれが、憲法上のさまざまな権利と比べた場合には格落ちするんですね。イギリスなんかでは、例えば地下鉄を橋上の立体交差とか、上に走らせていく、それを住民が、産まれたときから見た景観が台無しになる。これを裁判所に訴えると、地下を走らせることになる、あるいは溝を掘って、そこで見えないようにして走らす、それくらい強力なんです。

しかし日本ではこうしたことはまずあり得ない。公共の福祉が第一にされるということで、ただ風致地区であったり国立公園・国定公園それぞれのいろいろな種類があるんですが、特別地区などに指定をされた場合には、かなり厳しい規制、これは課される

わけではありますが、そうしたところでも無い限りは、なかなかこれは難しい。ということであれば、憲法改正の問題の中でこの景観権をどうするか、というのも大きなテーマの一つとなっているところでもありますので、今後是非、海外の事例であったり、日本における憲法改正問題、こうしたところにも関心を持っていただければと思います。

ということで今、各市長さん町長さん方から、また西部総合県民局から御回答さしていただいた以外の点について、私の方からも追加的に説明をさせていただきました。

各委員さんが言われたように、この徳島では、それだけじゃないよ、四国において、日本でも大変魅力、また可能性のあるこの県西部エリア、皆さん方とともにさらに盛り上げていくことができますように、しっかりと取組みを進めてまいりますので、これからも様々な観点から御提案、御提言賜りますよう、どうぞよろしく、お願いを申し上げます、私からの最後の講評とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

(副局長)

皆様、本日は長時間に渡りまして、貴重な御意見、御提案賜りましてありがとうございました。

徳島県西部圏域振興計画（第4期）につきましては、頂いた御意見等を踏まえまして、詰めさせていただきます。策定が完了しましたら、広く県民の皆様へ周知してまいりたいと考えております。

以上をもちまして、令和元年度第1回徳島県西部地域政策総合会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。